



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラク・トルコ：北イラク情勢

(6月19日、25日付現地各紙)

1. バルザーニ・クルド地方政府大統領の発言(19日付イラク現地紙)

- (1) キルクークに関する憲法第140条の実施が政治決定により遅延することは受け入れられない。実施が開始されるならば、時間を要する問題であるから、タイムスケジュールが3、4ヶ月遅延することは差し支えない。キルクークがクルドのものであることは、あらゆる文書から明白であり、これに反対する者は少数派である。
- (2) クルドは、イラク憲法の起草において卓越した役割を果たした。80%以上のイラク国民が憲法草案に対する投票を行った。クルドの人民として我々が自らの将来に関心をもつことは当然の権利であり、クルドの権力、事業、利益を侵す憲法修正は受け入れられない。

(注：憲法第140条は、2007年12月31日までにキルクーク(及びその他の係争領土)を正常化し、国税調査及び住民投票を実施することを規定している。クルド側は、石油資源の豊富なキルクークでクルド住民の多数を確保した上で住民投票を行い、合法的にキルクークをクルド自治政府に編入したい考え。キルクークに関する憲法第140条は、現在の憲法修正作業における大きな未解決問題の一つであり、クルド以外からは、同条実施の延期が妥当との意見が出されている。)

2. トルコ国軍が「イラクの現状及び今後とるべき措置」と題して作成した報告書要旨。 (25日付トルコ各紙)

- (1) PKKは、何ら困難に直面することなく、北イラクにおけるプレゼンスを維持している。
- (2) PKKは、現地の治安(警察)部隊との統合を進めているほか、北イラクの勢力から後方支援を受けている。
- (3) 約1,700人の元PKKゲリラが北イラクのペシュメルガ(クルド民兵組織)に参加している。そのうち1,200人がKDP(クルド民主党)系、500人がPUK(クルド愛国同盟)系である。
- (4) PKKゲリラのうち、15%から18%がイラク人である。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799